

【記者からの質問】

読売新聞／酒米農家への守り手認定制度の創設は、認定証のようなものを発行し、モチベーションの向上につなげる事業なのか。具体的な内容を聞きたい。

知事／これから検討することになる。蔵元から大切にされている農家は、モチベーションが高い。一方で、仕入れ先のような扱いならば、主食米に変えるという意見もある。酒米を作るのは大変なので、敬意を表現するシステムとして発表した。

読売新聞／作り手の減少というのは、農家以外もある。蔵元といった酒造りに携わる方に対しても認定をお考えか。

知事／全般的に先細り感はあるが、現在残っている 24 の蔵元は、元気で若手への継承もうまく進んでいるところも多い。意見交換しながら、どうすれば県産日本酒を世界に売り出していけるかを考えたい。

読売新聞／品種開発はすぐにできるものではない。目標とするスケジュールがあれば教えてください。

知事／研究機関に聞かなければわからないところもある。

佐賀県の研究機関は、自ら研究、開発をする。「にじゅうまる」「いちごさん」、米の新種「ひなたまる」も意外と早くできた。長年研究を続け、作り出す力が強い。県職員／酒米は高温に強く、酒蔵のニーズに応えられる品種に改良中。そう長くないうちに現場に卸せる形になると思う。

読売新聞／ツール・ド・九州 2026 に佐賀が入ることで決定か。

知事／その方向になるだろうと感触を得ている、今回は参加しているということ。

日経新聞／NEXT 賃金 UP プロジェクトは、企業の生産性向上に対する支援を続けてきた。また、零細企業に対しても生産性向上、新システムや技術の導入に補助金がついている。生産性の向上が、いずれ賃金の原資になるのはわかるが、直接に効く部分はどこか。

知事／そこは難しいところ。しかし、マクロ的に経済を回すためには、大きな方向性として取り組まなければならない。日本の人件費は、圧倒的に低すぎる。このままでは経済が疲弊していく、という考え方には説得力があると思う。

変化する市場経済の環境に適応しなければならない。産業労働部、経済団体も含めて、人的サポートと併せて生産性をアップし、苦しい企業が、前を向けるようなサポートをしていきたい。

日経新聞／県内で中小零細の倒産が増加。人件費を上げるために国から補助金が出たら、

予算措置を追加するのか。

知事／今日も大事な県内企業の倒産を聞いた。検証して連鎖しないようにしたい。この事業を進めながら、次なる手を考えたい。

日経新聞／NEXT 賃金 UP プロジェクトは、働く人の環境を改善するために支援することで、賃金アップも助ける枠組みという考えでいいか。

知事／そうです。結局、経済が進むと人件費が上がり続け、追いつかなくなる。毎年、上げ続けることになるなら、生産性を上げなければ持続できないのではないか。

急にできない会社もあるので、支援をしながら応援する形をとりたい。

日経新聞／県内中小企業の賃金アップにつながる支援として、全体で4億4000万と、大枠で捉えていいか。

知事／はい。今回は第5弾。毎回意見を聞きながら修正している。

補助率をアップした第4弾の評判がよく、メニューを同じにして額を出している。生きた形になるよう、持続可能性を維持していきたい。

日経新聞／「県内蔵元に酒米の価格高騰分を支援中」とある。酒米農家に対しては、この制度で差額分の補助を給付するので作り続けてほしい。酒蔵に対しては、酒米の高騰分を価格に反映しないためのお金を今までも投じている。今回もさらに投じるという認識か。

知事／そのとおり。ご指摘の支援策は、お酒と限らない価格高騰に対するもの。

日経新聞／瓶の価格も上がっている。

知事／酒米を支援するのは、酒米がなくなると酒がなくなるという危機感から。

価格急騰への対応は、国の交付金を使っている。国へのさらなる交付金を要請するなど、これからも支援が必要。瓶の話は初耳だが、そういったことも含めて取り組んでいきたい。

日経新聞／「新規」の中に「支援中」があったので確認した。今までの補助は継続するが、佐賀酒を守るための新たな枠組みの7600万という意味での新規か。

知事／そう。価格急騰に関しては、補正予算のたびにメニューを変えて手を打っているが、米は秋に作付けを決める。今、メッセージをしないと手遅れなので、先に手を打つべきと判断した。

毎日新聞／自転車レースに対する思いを。また、九経連で行う事業に、新たに参加することへのお考えも聞きたい。

知事／九州地域戦略会議は、年に3回ほど集まる。そのたびに声をかけてもらっていた。ただ、マンパワーを要するので、待ってもらっていた。

今回は、福岡県の服部知事と話す中で、糸島から唐津のグランブルーエリアを一体化し、PRできればと考えた。

自転車レースは、ヨーロッパで人気がある。波戸岬からの海岸線を唐津に向かって疾走するコースを、唐津や糸島の皆さんと一体感を醸成しながら盛り上げられたらと思う。

NHK／9月補正に当たり、全体を総括して知事の思いを聞かせてほしい。

知事／県民は、物価高騰に苦しんでいる。ただ、ピンチはチャンス、飛躍の機会でもある。佐賀は、世界に誇れる資源を持っているので、王道で将来に布石を打てるような事業立てをしたいと考えた。日本酒、焼き物など、佐賀には誇れる根本がある。守るべきところに手を打ち、将来に向けて攻め手を打った予算だと思う。

全体として、ピンチをチャンスに変えていく未来志向の予算になった。

NHK／文化庁のプログラムに採択された経緯を教えてほしい。

知事／有田とは、USEUM ARITA や 400 周年事業で連携をとってきた。文科省の中で、佐賀県の文化事業の認知度も上がってきたので、ACE プログラムに応募した。

九州陶磁文化館からオンラインで、観光課長と副部長がプレゼンをした。訴えるものがあつたのだろう。文化庁と観光庁が継続支援をする大型事業に採択された。

文化度が高い、趣のある事業にしたい。

NHK／平和の想い・記憶継承事業で、県内遺跡の訪問とあつた。これは学校での？

知事／県内の中高生 20 名程度公募し、アーカイブの取材などしてもらおう。佐賀には戦争の爪痕が少ないが、空襲や出征で辛い思いをした人はたくさんいる。その思いをつなぐため、沖縄の戦跡に行くなど、佐賀県版の平和大使的な活動をしてもらいたい。

朝日新聞／ツール・ド・九州や ACE プログラムは、県北部・西部エリア。東南部との発展の格差問題を意識しているのか。

知事／均衡ある発展、全県的な目配りは必要だと考え仕事をしている。それでも、緑化フェアのように南部になることはある。北部エリアからは、様々な声があり、唐津プロジェクトを行っている。

福岡から唐津・伊万里方向へのベクトルは、大きな売り出しのチャンスと考えた。現実論として、唐津は福岡を見ているところがある。それを逆手にとって連携する手法もあるのかと考えた。うまく糸島の流れに乗れば、というところもある。

そうした中で、自発的な地域づくりが、北部、西部地域にも生まれていくように。新幹線開通の影響がある鹿島、武雄、嬉野は、需要のある観光地として成長させたい。

アジア大学も認可された。県も応援するので、まちづくりに注力してほしい。

朝日新聞／戦没者追悼式を 10 年前倒しにしたのは、今年でなければ、という危機感があったのか。

知事／遺族会から、これから 10 年後は厳しい、との声があった。戦争の体験を直接伝えてもらい、平和について語られていた井上萬二先生も亡くなった。あと 10 年経過したら、形骸化してしまう危機感があった。

今回、芯がある行事として、80 周年を盛大に行いたい。

朝日新聞／参議院選挙時に、平和に対して今までと違う論調が出てきた。それを意識したのか。

知事／戦争はしてはいけないと思っている。自衛隊の使用要請も含め、平和を維持するための議論をしてきた。私は昭和 40 年生まれなので、戦争の悲惨さを伝え聞いている世代。若い人たちには、本当の残酷さが伝わっていない。平和の尊さが、言葉だけでなく、胸に伝わる県民、国民を増やしていくべきと考える。

NHK／虹ノ松原、唐津エリアでは、トライアスロンが行われていたが、人手不足で消滅した経緯がある。ツール・ド・九州で復活するのは、地元もうれしいだろう。知事の思いや期待感を聞かせてほしい。

知事／唐津の皆さんからは、支援の要望を聞くことが多い。私は、自発の取組に支援する形がいいと意見交換をしていた。

今回のツール・ド・九州は、唐津の皆さんの要望の実現になる。これが起爆剤になって、またトライアスロンが復活すればいいと思うし、できると思う。地域尽くしの心尽くしのものは、皆が納得する。

これをきっかけに、自発的に動く方向につなげたいというのが私の気持ち。